

会員リレーコーナー

しばらくです
ども



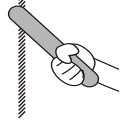
今回登場された会員からバトンを渡された会員の皆さんは次回の掲載になりますのでよろしくお願ひいたします。

東北電友会会報 編集委員会
※氏名の後の()は退職年を示す。



五ッ橋クラブ 齊藤 健(平2)

からのバトン



五ッ橋クラブ 松本 善英さんへ

大変世話になった同郷・同窓の小野寺さんからバトンが回ってきました。私のポケ防止対策として提案してきたのだろうと思ひ近況報告を兼ねてペンをとることにしました。

松島町に住んで34年が経ちました。場所は東北本線で仙台駅から約30分の品井沼駅近傍で松島町幡谷地区です。

平成2年春にN.T.Tを離れ、仙台の大和電設工業に入りました。家族3人での生活体制を整えようと品井沼駅前に住む義叔母に相談したところ、近くに格好の空き家があるというので早速友人の知恵なども借りながら調べアマチュア無線・家庭菜園・釣りの3つが楽しめるという私の選択の条件にも合うのでそこに決め、おらが世はその草も餅になる(一茶)といった風情が気に入り四季の変化を肌で感じながら日々を過ごしています。

毎朝、爺爺放談会と称してアマチュア無線仲間(私はJK7BU

M)との交信開始で一日が始まり天気の良い日は30坪程の家庭菜園で時間を費やし、月2回ほど近所の平均年齢70歳位の仲間と作っているパークゴルフクラブの例会を楽しみ、釣りは主にはぜっ子クラブの仲間との顔合わせを楽しみに出かけています。

近時のI.Tの発展は確実に社会の在り様を大きく変えてきています。限界集落に近い様相を呈してきた我が幡谷地区でもこの変化を取り込み新しい地域づくりができないものか等と考える日々でもあります。

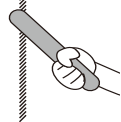
私の好きな一茶の句「このように枯れてもさわぐすすきかな」の心境でまだまだ皆さんとの交友を楽しみたいと欲張っています。

バトンは私の海釣りの師匠で五ッ橋クラブ・釣りサークル「はぜっ子クラブ」初代会長松本善英さんに渡します。



電友あさか会 黒川 幸正(平8)

からのバトン



福島地区電友会 鈴木 敏和さんへ

私が郡山支店時代、公衆電話課へ職転したばかりでいろいろとお世話になった加藤章さんからバトンを受けました。その節は有難うございました。

昭和35年原町電報電話局電報課を振り出しに電話運用畑で28年、合計36年、その後のドコモサービース東北を合わせて合計43年もの長期にわたり福島県内の『浜通り、中通り、会津』とその地方の先輩の方々に大変お世話になりました。春になると山菜採りが好きで野山を歩き回っていました。

釣りはハゼやアイナメ釣りが主でしたが中通りの勤務地で溪流釣りを教えてもらいヤマメ、ニジマス、イワナ等を釣り歩きました。そんな時、イタチや、まん丸い目をしてキョロキョロしながら

オコジョが現れたり、ビックリするようなハプニングに出会うこともありました。会津地方に転勤してアユ釣りを教えてもらいました。その後、何回か川に行っているうちにアユ釣りが面白くなり6月1日解禁の茨城県の久慈川、矢祭川7月1日解禁の福島県の摺上川、石筵川等に、せっせと通うようになりました。

今年元旦早々能登半島地震が発生し、2011年の東日本大地震を思い出しました。東京電力福島第一原発事故により海・山・川が放射能で汚染したということ、釣り、山菜取りはきっぱりと諦めました。現在は、朝夕毎日リードをつけて猫と散歩したり、天気の良い日は尻餅をついたりしながら小さな菜園で土いじりをしています。



クレマチスの花咲く自宅前で

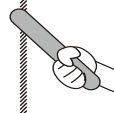
次のバトンを田島局時代、同じ社宅で町内のお祭りや尾瀬沼へ案内していただいた鈴木敏和さんに渡したいと思います。よろしくお願ひします。



いわき電友会

西尾 秀子(平10)

からのバトン



吾妻電友会

伊藤 邦子さんへ

バトンを頂いた佐藤勇吉さんとはコロナ前、帰郷して清水みちよさんを訪ねた時に50年ぶりで再会し楽しい時間を過ごさせて頂きました。

私が入社した昭和35年、同期の中村いせ子さん、佐藤妙子さん、菅原房子さんの皆様には年賀での付合いで数年過ぎてしまっています。当時の交換作業は市外はもちろん市内通話もコードで繋いでいた時代でした。その後自動化を数年後に控え男性の交換手が多く入って

しばらくの間は男性の交換手が出ると驚いて電話を切るお客様もいて…。8日に1度の泊まり勤務は同じように宿直のある電報、中継所の皆様と夜通し語り(何を喋ったのか?)、宿明にはそのまま「わらじ」の会の皆様と山に登って…。先輩・後輩の皆様、特に前述の清水みちよさんには公私共本当にお世話になりました。一閑時代を有難うございました。いわきに来て、西も東も分らず言葉も「浜」特有の荒い言葉で一関の3倍もの大きな職場の中で、言葉、地名に慣れるまでの数年は本当に大変でしたが、一年中青空で温暖な気候の地と沢山の同僚の皆様を支えられて以来、今日まで日々穏やかに過ごしてこられました。いわきの皆様にも感謝です。電友会・退職者会の旅行、行事には参加を心がけ旧交を深めています。今週2回のグラウンドゴルフを楽しんでいます。次のバトンは、電友

吾妻会の伊藤邦子さんにお願ひします。赴任されてきたいわきでの4年間、お世話になりました。併せて御主人の福島地区電友会の伊

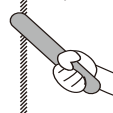
藤鉄次さんにはグラウンドゴルフ県交流会でお世話になっています。お2人に感謝です。今後ともよろしくお願ひします。



盛岡電友会

圓子 文康(平13)

からのバトン



秋田支部

齋藤 和雄さんへ

昭和46年10月、大学受験で浪人中の20歳の時に中途採用で電電公社に入社しました。4か月間の研修を終え、翌年2月に配属されたのが丸の内電話局施設部第一機械課。以後30年余り勤め、平成13年12月に退職しました。楽しいこと、やりたい事をさせていたいただい「アツク」という間の30年だったような気がします。退職して早20数年。これも「アツク」という間でした。

読者の皆さまに語るような昔話を持ち合わせておりませんので、

退職後20数年のMy Historyをまとめてみました。

退職後、最初の仕事は警備。機械警備やホームセキュリティといった、契約を取って来る仕事です。営業と技術陣のチームワークが良く、素晴らしい会社でした。

そうこうしているうち、最後の勤務地で知り合ったネパール人が盛岡にやって来て、あれよあれよという間にインドレストランを経営する羽目になりました。美味しくて大好評だったので、日本に来てばかりの外国人コックが、盛岡の寒さに耐え切れないで換気扇を止めたことによる一酸化炭素中毒騒動勃発。客足が戻らず、あえなく3年足らずで廃業。その後は、高校の後輩がやっている冠婚葬祭業のお手伝いとして、ある会社へ。ところが既に業界では大手といわれている会社を買収されてしまいました。パワハラの最たる会社で、思い出すだけで反吐がでます。最悪の2年間でした。そして今やっているのは電気の販売。2016年4月、電力業界は完全に自由化され。誰でも電気を売っ

たり、誰からでも電気を買ったたり出来るようになりました。私が経営する会社は、全国で700社余りある新電力会社の中から5社と代理店契約を締結し、約50件のお客様と契約しております。中には、大手電力といわれる昔からある電力会社より年間で500万円も電気料金が安くなったケースもあります。大変感謝され、私も営業の喜びを感じています。最近はお客様がお客様を紹介して下さるようになってきました。まだまだ止める訳には行きません。73歳にして、現役の営業マンです。

私にバトンを渡してくれた小野寺敬作さんとの出会いも、「電気」が縁でした。小野寺さんと私の共通の知人（私が電気を売る仕事をしている事を知っている）が、「一度お会いしていたほうが良いだろう」ということで仲介の労を取ってくれ、お会いできることになりました。当時の小野寺さんは、JAいわてのトップである「JA岩手県五連会長」をされていて、とてもお忙しい方でした。それにも関わらず時間を割いていただき、

3度もお邪魔いたしました。いつもにこやかに迎えてくれたこと、岩手公園を見渡せる広々とした会長室からの素晴らしい眺望と大きなデスクは、今でも鮮明に覚えています。

大分端折りましたが、NTT退職後の圓子は、かように20数年間を何とか生き延びて来ました。そしてこれからも営業マンを続け、「世のため人のため、そして少しだけ自分のため」をモットーに、元気に生きて参ります。

「味噌汁の詩」でも歌いながら、今日も行くがぁ。♪「あの人の人大臣だつてみんないるのさおふくろが、いつか大人になった時、なぜか偉そうな顔するが…」おっとな、もう着いたか。どんなお客さんがな。「迷わず行けよ、行けばわかるさ。危ぶむなかれ、危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となります。」「こんにちば。おじゃまいたします。」

バトンは、青森県と秋田県で一緒だった、いつも冷静沈着でいながら結構ひょうきんな一面も有り

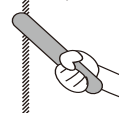
私の大好きな人の一人、齋藤和雄さんにお渡しいたします。

「齋藤さん、よろしく！」



霞城クラブ
佐藤 辰也(平19)

からのバトン



石巻電友会 梶谷 浩一郎さんへ

今でも大変お世話になっている佐藤宗幸さんからバトンを受け、近況を話したいと思います。

元々、自宅が農家で自然が好きだったことから、会社勤めに終止符を打った暁には、自給自足の生活を送ろうと考えていました。今では、1年間を通し、野菜は殆ど買う必要が無いところまでになりました。

そんな中、5年ほど前から畑の片隅に自作で1坪程の鶏小屋を建て、中には安心して卵を産む部屋と、夜眠る止まり木を設置し5羽の雌鶏の飼育を始めました。品種

は烏骨鶏。冬は雪が降るので、飼育期間は季節限定（5月から10月頃）です。

鶏の習性もわからず飼育を始めた1年目は、昼夜鶏小屋の中だけの生活。鶏同士の間が狭いので、狭い所で生活してしまいました。狭い所での生活を余儀なくされたことによるストレスで可哀想なことをしてしまつたと後悔しました。2年目は雌5羽と雄1羽の協同生活、前年の教訓を生かし平飼。雄鶏は早朝から毎日、甲高い鳴き声、これでは近所迷惑と思きや、目覚まし代わりに活用できると絶賛でしたが、それ以来、実益を兼ね毎日卵を産む雌5羽のみ。

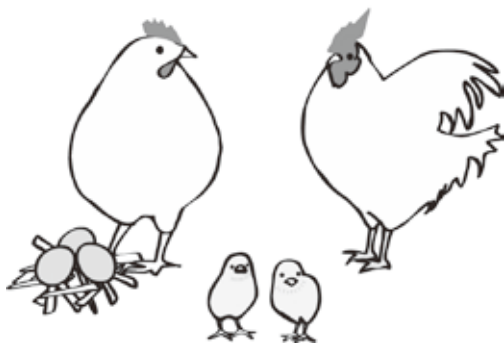
卵の黄身は食べた餌（粉碎トウモロコシ）の色がそのまま出ます。米を餌として与えれば白い黄身となります。市販の卵の真つ赤な黄身の色に感動するでしょうが、あれは鶏の餌に赤くなるよう酵母を混ぜ与えており、色の違いによる栄養価には殆ど差がありません。また、卵の殻を固くするには粉碎した牡蠣殻を毎日与えることも必

要です。

近年、ウクライナ戦争のあおりを受け餌代も約2倍に高騰し、戦後の優等生と言われた卵の値が上がってしまい残念でなりません。

我が家では、鶏にキャベツや白菜等の外側の葉を与え、鶏糞と自宅から出る生ゴミを合わせ、野菜栽培に欠かせない肥料作りを行います。これぞ循環型農業と自負しております。これからも、自然と向き合いつながりながら人生を楽しみたいと考えています。

次のバトンはブルーベリー栽培でのご指導を頂いている石巻電友会の梶谷浩一郎さんをお願いします。



村山クラブ
工藤とし子(平10)

からのバトン

村山クラブ 細谷 千加子さんへ

何回かの合理化で最後の職場は山形支店の116でした。その頃は、夫が単身赴任しており、長女・次女は学生で別世帯だったので四重生活でした。

私の町は山形県内でも有数の豪雪地で冬の通勤は大変でした。朝4時に起床し車庫前まで雪かきをしてから6時30分頃の電車に飛び乗り、帰りは家に帰ってから車庫前から玄関まで雪を片付けてから家に入るような毎日でした。通勤は厳しいものがありました。職場は大変楽しいものでした。

しかし、職場での人間ドックで病気が見付かり手術も経験しました。明日から一日勤務となった日に同居していた義母が骨折し、入院するようなことがあり、50歳で早期退職せざるを得ませんでした。

あれから26年の歳月が流れ、現在は自宅の周辺の草取り、農作業・林の下刈り等を行っています。

イチゴや野菜等を畑に植えており、食卓のおかずが足りない時など、畑の野菜や林の山菜などを取って来て1品作ることが出来ます。買って来た方が安いかもしれませんが新鮮で旬のものが食べられることはお金には代えられません。

冬季間を除いて、私の日課は、朝5時から1時間ウォーキング、9時から農作業、午後は2時間ほどテレビ観賞し、6時から夕食の支度。1週間の内、金及び土曜日の午前中、町のスポーツクラブで1時間ほど汗を流すなど、**教養(今日用事があること)教育(今日行くところがあること)**を大事にして、ボケないようにせつせと買い物に行ったり、体を動かすようにして過ごしています。

今回のバトンは、山形支店で大変お世話になった電友会村山クラブの細谷千加子さんをお願いします。

たまたまシニア倶楽部」のメンバーに米沢エリアの電友会&退職者の会合同で立ち上げた「NTTおいたま

10年が過ぎ現在に至ります。これと言った趣味を持たない私ですが、3食昼寝付きをモットーに米沢エリアの電友会&退職者の会合同で立ち上げた「NTTおいたまシニア倶楽部」のメンバーと

バトンをいただき、自身のサラリーマン生活を振り返る機会を得て真つ先に思い出したのは、まもなく民営化を迎える3月、後の116受付業務となる電話受付担当として窓口の一角に主査と女性2名の計3名で配転してからの怒涛の日々です。

電友会おいたま
屋代 良子(平26)

からのバトン

村山クラブ 齋藤 友晴さんへ



その後暫くして新営業体制へと変わり、再編に次ぐ再編の渦の中転勤・配転を繰り返しながら後半は山形支社、支店、サービス会社へと約20年間米沢から山形への通勤を終え退職し、あつという間に10年が過ぎ現在に至ります。

さて、次のバトンは米沢そして山形へと共に苦勞した、電友会村山クラブの齋藤友晴さんへ託したいと思います。現在は果樹農園として大忙しの友晴さんですが、よろしく願います。

して、ボランティアや地域貢献活動、各種レクリエーションや文化活動等に参加しながら先輩方より刺激を受け、何とか元気を保っております。

現在、唯一楽しんでいるのは、コロナ禍での規制が緩和され国内から海外へと少しずつ旅行を再開している事です。

昔の仲間からお呼びがかかれば何処へでも？出かけ、再会の喜びを満喫し、更なる再会を約束しそれを楽しみに日常へと戻ります。

あと10年元気で居られるかなあと思いつつ『終活始める？』と自問しながら毎日を過ごしているところです。

仙台紙工の「プラス思考」で、あなたの「思い」をもっと豊かに

1 Creative

- デザイン
- コピーライティング
- CM等の企画・制作
- 商品開発ほか

2 Digital Content

- WEBサイト
- インターネット広告
- AR
- 動画

3 Sales Promotion

- ポスター・チラシ・DM
- パンフレット・カタログ
- 折込・ポスティング
- イベント企画・運営ほか

4 Marketing

- 市場調査
- 分析

ECサイトはじめました

産直ストア

メッケモノミヤギ

魅力溢れる、宮城の「メッケモノ」をご紹介します！
お土産や贈り物にも、是非、ご利用ください。

オリジナル
サイト

Yahoo!
ショッピング

メッケモノミヤギ

検索

株式会社 仙台紙工印刷

〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14

Office TEL(022)231-2245(代) FAX(022)231-2247

Design TEL(022)231-2251 FAX(022)231-2252

<http://www.sendai-shiko.jp>

<http://fb.com/sendaisshiko>

info@sendai-shiko.jp

会友コーナー

文芸

俳句

川柳

短歌

詩

随想



文芸

短歌

仙南OB会

大庭美智子

難を転じる南天の絵手紙よ

光の中に読む年賀状

散歩道微笑みすれ違う乙女や

音もなく追い越す人もあり

遠き日の磐女の友と長電話

よくぞこれまでと九十路の春よ

白河地区電友会

釜田 正之

サクサクと稲刈りの音心地よく

藁が詰まって時々止まる

ナスピーマン毎日通う借りた土地

彩り豊今日の食卓

カエル跳ね

刈りたて田んぼサギが来た

よくぞ見ていたこの瞬間



俳句

仙南OB会

大庭美智子

公園にブランコ揺れて春日和
着ぶくれて検査するたび手間かける
春寒の雨に打たるる椿かな

福島地区電友会

関戸 武

草笛を吹きつつ農婦昼さがり
向日葵の大きく育ち廃校舎
牡丹園木椅子の下の風の音

弘前地区電友会

倉谷 景子

佇めば吾も花人追手門
向かふとこ敵なし城の花吹雪
途花追ふて東門より手漕ぎ舟

弘前地区電友会

菊池 つる

錦雲の吸はれる如く夏の空
豪快な雲海眺め昼御飯
高山の紅虎杖の小さきかな

川柳

五ッ橋クラブ

山ボーイ

点滴の奥に明星今朝も見ゆ
春闘も終わってみれば値上げだけ
ブランコの空蹴る足に花吹雪

仙南OB会

大庭美智子

わが町の誇りはお城野面積み
媼オウナとやこれは誰かな吾の写真
軒下に野良猫八匹お椀が八つ

福島地区電友会

高橋 敬一

ヒョッコリと今年も芽出すフキノトウ
花見客他国の言葉乱れ飛び
黄砂風マスクの中は汗まみれ

福島地区電友会

齋藤 馨

会報の趣味欄で知る友の業わざ
マスク取る初めての顔凝視され

弘前地区電友会

ゆきやなぎ

振り向けば可もなく不可少し
向き会へば不可ゆえ少し味がある
これよりは味付け少し面白い

秋田支部

柏谷 武

電話かけ元気印の度合い知る
ハーモニカいくら経っても捨てられぬ
朝市で世間話も買って来る

秋田支部

高橋 幸雄

行く春をどこえ連れ行く花筏
先輩の住まい探せた電話帳
同期会ふるさとソングで盛り上がり



◎投稿は紙面の都合上、一人3句までとさせていただきます。多数投稿されている場合は勝手ながら編集担当で選定いたします。

会友コーナー作品募集

会報編集委員会では会員の皆様からの原稿を募集しております。

- 短歌・俳句・川柳など
 - 随想・旅行の思い出など
- 〈お一人3首(句)以内〉 〈1,200字以内/年1回掲載※〉

※ただし、投稿数が多い場合は次号に持越しとさせていただきます。

【お問合せ・連絡先】
 電話(022)212-1443 ▶ FAX(022)212-1444
 電友会東北地方本部 ▶ E-mail:keyaki3@denyutohoku.sakura.ne.jp

随想



近況報告



電友あさか会 八巻 勲

昭和40年に福島電報電話局に入社。線路職、営業職に従事し、平成16年無事退職を迎えました。退職後は、全国制覇を目指し旅行を計画。去年無事47都道府県を廻る事が出来ました。

思い出に残るのは、平成18年の九州に出向いた時の熊本城です。石垣が崩れた様は城の姿の体を残しておりませんでした。修復に従事する方々の姿を見て、城内に祭る神社にて安全を願うばかりでした。

次に平成23年11月能登に出向き、朝市、千枚田、キリコ保存館と見学。朝市に出店している売子さん達の表情は明るく屈託がなく商売気の無い表情に映りました。今年の震災に際しては、テレビに映る姿を泪なしには見る事が出来ませんでした。早い復興を祈るばかりです。

りです。

また、13年前の東日本震災では災害発生もなく釜石へ出向きましたが、街はガレキの山。足の踏み場も無く、それは無惨なものでした。40〜50mもある大型船が防潮堤に乗り上げていたのです。

そうした悲惨な状況ばかり見て来た訳ではありませんが、私自身は大波にも災難にも合わず大過なく本日まで暮らす事が出来ました。今では1年1鉢を足し続け100鉢を有する小盆栽を春には植替、夏には水掛けや陽除けのヨシズを掛けてやり、秋には冬囲い作業をするなどのサイクルで日々を過ごしています。まだ元気はありますが、来年2月には運転免許証を返納し安全に平穩に、しょぼくれた年寄りにはならぬ様頑張っていきたいと思っています。

最後になりますが、電友会様より多大な喜寿のお祝を頂き有り難く存じます。電友あさか会、会員の皆様のご健勝を祈念いたします。ありがとうございます。



退職後の活動



電友あさか会 水野 榮

今回喜寿のお祝いをいただきありがとうございます。昭和41年高校卒業と同時に18歳で電電公社に入社し施設部門・営業部門の仕事をし、勤続満30年をもって早期退職後、会社を設立現在に至っております。退職当時、一般社会で認知されている資格は運転免許証しかなく啞然としたことを覚えております。退職後は誰かの役に立つことをしたいと考え共済会（テルウエル）の支援で「ホームヘルパー2級」の資格取得したことから「弱者の権利擁護」の勉強をスタート。福島大学・東京大学で学び認知症の人を支援する「すかがわ・市民後見制度の会」を設立し講義・講師を勤めております。その関係で市社協との繋がりが出来、社協の生活支援が必要な判断機能力が低下して金銭管理等が難しくなった人への支援を開始。また、行政からの依頼で身寄りのない人の身元保証人となり何人もの方の入院・入所等に係わっております。

NTT時代須賀川に住みながら他市での勤務が多く行政との繋がりが無かったため、退職後は国勢調査員をはじめ日赤救急法指導

員・防災士としての防災意識を高めるための講師、環境を守るための活動等を通じて行政との繋がりを作っております。今後も健康に気をつけて体力が続く限り誰かのお役に立てられる様なボランティア活動等に取り組みで行きたいと思っております。

我が家猫たち



白河地区電友会 山田 道夫

65歳で退職して早や7年になりました。今、猫5匹と暮らしています。

退職した年の秋頃に2匹の野良猫が我が家に来て来ました。ためらいはしたけど飼うことにしました。

当地区のNPOで「地域猫」の取り組みをしているのを知りました。日本各地のボランティア団体のTNR運動と呼ばれる運動で「罨で捕獲 (Trap)・不妊手術 (Neuter)・元の場所に返す (Return) という」頭文字3文字を取った活動です。その取り組みをした猫が「地域猫」ということです。野良猫を増やさない、殺処分される猫を出さないのが目的だそうです。NPOに相

談したところ不妊手術をしていただけることになり、関東から獣医が来て他の猫とまとめの手術となりました。ただ手術の証として目印を付けるとのこと(誤って何度も手術することがないように、また繁殖しない猫なので殺処分されないように)。以前は首輪とかピアスなどが検討されたが引っかけたり取れたりする恐れがあることから、今は耳をカットする事になっています。一文字、Vカット、桜カットがあり、私の時はVカットで耳の先端をVの形に切るとのこと。ただ不妊手術で麻酔をするので痛みは感じないし、耳には血管が少なく出血もあまりないとのことでした

が、我が家の猫は飼い猫となるので、耳のカットはしないよう説得し承諾を得た。手術が終わり、猫が帰って来たのでケージに入れたが不安のためだろうか、鳴いてあばれた。夫婦で愛情を注ぎ見守って1ヶ月が過ぎたあたりから落ち着き我が家の家族となった。

それから何故か怪我を負った猫たちが助けを求めるかのように、我が家にやって来るようになった。放っておけずいつの間にか保護猫は5匹に増えていった。

朝早くご飯の催促で起こされ、おやつのおねだり、夜寝るころに運動会が始まったりと賑やかな毎日だが、膝の上で眠る姿に癒され

ている。これからも猫たちに癒されながら楽しい毎日を健康で過ごしたい。

職を離れて6年目の春を迎えました。最近の日々の過ごし方は晴耕雨読といったところ

です。天気の良い日は家庭菜園でトマトやきゅうり、ナスなど定番野菜の世話をし日々の収穫に満足しています。昨年はトマトのプチプロを程よく収穫できました。

私の住む平川市は西に津軽の霊峰岩木山を、東には八甲田連峰を望む津軽平野の南方にあり、周囲は区画された水田と点在するリンゴ園と丘陵地は一面リンゴ園といったところで、岩木山、八甲田連邦ともその麓までは私の住む地からは車で1時間ほどです。

春には近くの山へ山菜取りに出かけます。春の山は新芽が芽吹き新緑が広がり、山菜とともに山野草もたくさん見ることができ、楽しみがいっぱいです。時には収穫した山菜を仲間へおすそ分け出来たりもします。私は地域のコミュニティに参加するように

退職後の私



弘前地区電友会 富士 信秀

職を離れて6年目の春を迎えました。最近の日々の過ごし方は晴耕雨読といったところ

です。天気の良い日は家庭菜園でトマトやきゅうり、ナスなど定番野菜の世話をし日々の収穫に満足しています。昨年はトマトのプチプロを程よく収穫できました。

私の住む平川市は西に津軽の霊峰岩木山を、東には八甲田連峰を望む津軽平野の南方にあり、周囲は区画された水田と点在するリンゴ園と丘陵地は一面リンゴ園といったところで、岩木山、八甲田連邦ともその麓までは私の住む地からは車で1時間ほどです。

春には近くの山へ山菜取りに出かけます。春の山は新芽が芽吹き新緑が広がり、山菜とともに山野草もたくさん見ることができ、楽しみがいっぱいです。時には収穫した山菜を仲間へおすそ分け出来たりもします。私は地域のコミュニティに参加するように

私は地域のコミュニティに参加するように

なりました。その一つに町内のお寺様へ5年に1度大わらじを奉納する会があります。この会は同じ町内にある猿賀神社へのしめ縄の奉納も行っています。町会からの推薦もあり神社のお手伝いもさせていただくようになり季節の諸行事にも参加しています。地域の方と交流し、地域文化の継承に力を注ぐ皆さんとの活動に時間を割いて行きたいと思っています。

当地の猿賀神社の境内には2つの池があり周囲には桜が植えられ芝生も整備されています。桜の花のあとは周囲のりんご園の花、そして神社の池の蓮の花が楽しめます。隣接して名勝誠美園もあり、ちょっとした行楽地になっており、時にいろんなイベントを開催する会場ともなり、昨年からはイベントの人もコロナ前の賑やかさが戻って来たと感じています。

私は在職の頃からゴルフを続けています。日課からゴルフ練習場通いは外せませんが、今から技量の上達を望める訳もなく、身体に異常がないかチェックをすることが大きな狙いです。そして偶には仲間と誘い合ってコースに出て、整備された芝生の中でボールと格闘するといった具合です。

アウトドア派の私ですので毎朝の散歩を継

続し、身体に不調を抱えないようにしていこうと心がけています。

私にとつてのスポーツ



上山電友会

加藤 弘

今の大人がそうであったように、私にとつてのスポーツも遊びの中から始まりました。夏休みの時など、近くの広場で毎日のように日が暮れるまでボールを追いかけて、よく親に叱られたのを懐かしく思い出されます。



ゴールテープを切る
加藤さん(右)

40代のころにぎっくり腰になって病院通いをする事になり、なかなか良くなりえず困っていたら、丁度そのころ上山体育文化センターが完成、その中にトレーニングジムもできたのでリハビリのつもりで週2〜3回程通い続けました。

そのうちジムに通っていた数人と仲良くなり、毎年4月から11月ころまで東北各地で主催している各種のマラソン大会に仲間に参加することになりました。走破タイムも毎年短縮し、おまけに距離も10キロから20キロさらには30キロ、やがてフルマラソンも走れるようになった。体力に自信がつくと同時に



卓球試合
左が加藤さん

走る事の楽しさと走り終わって帰途につくとき、仲間と各地の温泉巡りを楽しんで親睦を深め合ったことなども懐かしい思い出となっています。

年を重ねると共に、走ろう会仲間と会う機会も減り、60代に仕事で知り合った卓球愛好会に参加することになり、今は週3回程卓球を楽しんでいます。

このように年齢とともに軽度なスポーツへといつのまにかシフトし、あるいはスポーツをする側から見ると、応援する側へと変わってきていますが、スポーツは、自分の人生において欠かせないものになっており、今後何らかの形でいつまでも関わり合っていくのだろうと思っています。

77回目のお花見



秋田支部

金 登美一

4月13日、秋田市の千秋公園にお花見に行ってきた。桜は、五分咲き、多くの屋台と若者や家族連れで、とても賑わっていました。

私はここのお花見に来ると必ず立ち寄る庭

園の池があります。私が小学校1年の時、母と兄弟3人と池の前で撮った色あせた写真があるからです。池も庭石も昔のままです。50キロ離れた村から煙吐く汽車に乗っての大旅行でした。ほぼ70年前の事です。もう77歳。よくもまあここまで生きられたもんだ。まだボランティア的な仕事もしています。この77年間一言で言うなら「楽しき仕事あり苦しきことあり、多くの人たちに助けられた人生」であります。

残り少ない人生ですが、懺悔ざんげと感謝の気持ちで、この坂道をもう少し上っていきたくと思います。

思い出のランプ

(9ページ戦争当時の記憶に続く)

T・H様

(大正14年生まれ R5没)

昭和15年4月5日、石巻郵便局2階の局長室で「電話事務員見習を命ず」日給40銭の辞令をもらい、はじめて電話分室の門をくぐった。電話交換室に案内されて入った瞬間「あッ、きれいな職場だナ」と思った。トロトロに磨かれた薄茶色のリノリユームの床

にえんじ色の交換台、その色の調和が何とも云えず美しく目に映った。

白い事務服に紺色の袴を着けた監督さんが3、4人立ち、両側に並んだ交換台には、先輩たちが整然と並んで、慌ただしく手を動かしている。何十人も美しい声が室内いっぱい流れて交錯し、ランプの明滅が絶える事なくつづいている。赤と白の何百本もの接続コードの綾を、見事な手さばきで操作している光景には、ただただ驚くばかりであった。

万事スローな私は、「こんな仕事できるかなー?イヤ、できない:やっぱり髪結いさんになったほうがよかったかも:」ナンテ小さな胸を痛めたものだ。

このころの石巻の加入者数は750位、交換要員は新入生を含めて約70名、共電式交換機で、市内台が8台、市外台が9台、案内台が1台であった。

3ヶ月間の見習実習を終え、晴れて電話事務員となったその日、白い反物2反を渡され各自事務服を仕立てるように指示された。

事務服は洋服でも和服でもよいことになっていたが先輩の大半は和服用で袴を着けていた。色とりどりの袂を風になびかせ、袴姿でさっそうと通勤する先輩たちの姿は、実に美しく、町ゆく人々も振り返って通り過ぎるほ

どだった。

新入生の私たちにとっては、夢であり、羨望の的でもあった。いつの日か自分も…と、そんな思いを実現させて一度町を歩いてみた。

丁度下校時刻だったので、行き交う子供たちが、みんな「サヨナラ」と頭を下げてゆく。

「あッ、学校の先生と間違えられているナ…」
と思いつつも、ニコリ笑って、「サヨナラ」と過ぎてゆく。何ともくすぐったい方がいい気分だった。袴がいいな…と思ったものである。しかし、この袴もそう長くは続かなかった。

支那事変の戦局が大きく変わり、昭和16年12月8日、太平洋戦争に突入した。入局して1年8ヶ月のときだった。この日を境に、袴やスカートは一斉にモンペ着用となり、軍事教練や防火訓練が行われるようになった。

戦争が激しくなるにつれて、物資不足は次第に深刻となり、戦場の様相は徐々に変わっていった。ストーブの燃料である石炭がなくなり亜炭に変わったが、なかなか燃えなくて交換室の中はモウモウの煙り、交換台は灰だらけとなり、頭から大きな布をかぶって作業をした。やがて、そのストーブの煙が敵機の標的になるということで、火鉢に変えられた。

このような厳しい状況の中でも、宿直の夜

の楽しさはまた格別のものだった。火鉢を囲んで持ち寄りの米を炊き、防火用のバケツでカレーを作る。やかんで小豆を煮て餡を作り弁当箱でくりまんじゅうを焼く…等々。おなかをすかした乙女たちが、あれこれと知恵をしぼって作りあげる傑作ばかりであった。職場での煮炊きは勿論ご法度…。

深夜巡回の監視員の目をごまかしてのご乱行なので、いろいろ頭を悩ましたが、ある朝出勤してきた上司のお茶に、小豆のカラが浮かんでひと騒ぎになった。監督さんは油を絞られたらしいが、宿明のその他大勢は、一目散にわが家へと逃げ帰っていった。

このような夜話しはたくさんあるが、これはその中のホンのひとこまである。

戦局はますます厳しくなり、通信施設の重要拠点である電話局ではさまざまな非常態勢がとられた。軍事通話の接続、各機関への警報の伝達など、寸秒を争う事態に備えるため、「取扱者は、いかなることがあっても交換台を離れてはならない」と厳しく云われていたので、私たちは「死んでもコードを離さず」が合言葉のようになって、悲壮な使命感を持って交換台に向かっていった。

敗戦の色が次第に濃くなり、昭和20年8月15日、全国民慟哭の中で終戦。空襲のサイレ

ンが鳴ることもなくなり、人々の家々には灯りが見えるようになったが、アメリカやソ連の軍隊が上陸してくるというウワサが流れてみんな不安におびえていた。

8月20日午前7時、私は宿明の交換台についていた。仙台5番線のランプがついたので応答した。

仙台の取扱者が緊張した声で「樺太（今のサハリン）の真岡郵便局の交換の人たちが自決したようです。『ソ連が上陸してきたので、私たちはこれから青酸カリを飲んで死にます。みなさんサヨナラ、お世話になりました。』と云って、切れたそうです。私たちもいよいよですね。以上連絡です。」と云って切れた。私はすぐさま現場の人たちに大声でその旨を告げた。一瞬「エッ！」と驚きの声をあげて、みんな息を呑んだ。市内台のランプが激しく点滅しているのを見ながら、いよいよ私たちにも薬を渡される日がくるのかと心も凍る思いだった。

最後の瞬間まで交換台を死守して自決した9人の乙女たちは、その使命感ゆえに、逃げ出すこともできなかったのであらう。

25年間の在職中の最も強烈な思い出としてこの「昭和20年8月20日午前7時の交換台」を、私は生涯忘れることができない。

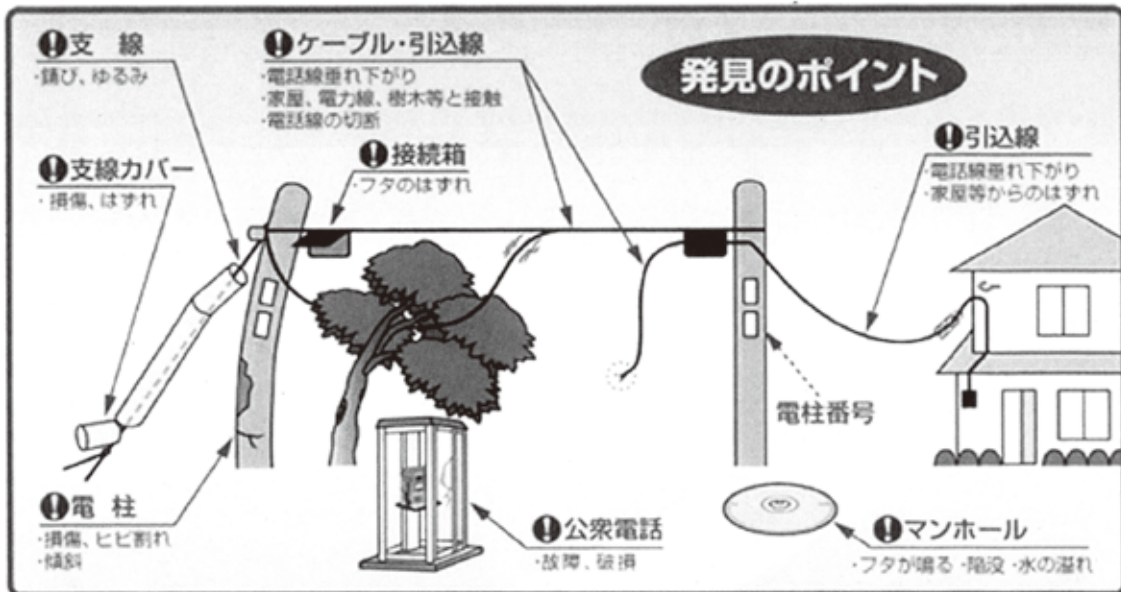
9人の乙女たちのご冥福を祈るや切である。磁石式から共電式へ、そして昭和37年8月19日に自動式となり、更に、仙台への集中合理化によって、石巻の電話運用が無くなってしまふことは、時代の変遷とは云え、その職場に生き甲斐と誇りを持ち、電話交換の仕事を愛した者として、大きな寂しさを禁じ得ないが、これからも仲間達の絆を大切に、これまで思い出の灯り（ランプ）を消さないようにしてゆきたいと思っている。

◆会友コーナーへの投稿について

- 他紙等への二重投稿はご遠慮願います。
- 「随想」への投稿については誌面の都合上左記内容にご協力をお願いいたします。
- 掲載・・・年1回
- ただし、投稿数が多い場合は次号に持越しとさせていただきます。
- 字数・・・1200字以内厳守
- 紙面の都合上、調整させていただく場合がありますのでご了承願います。
- 次回締切り・・・令和6年10月20日厳守

不安全設備の情報提供にご協力ください

こんな設備を発見したら・・・



Web113への情報提供をお願いします！！

Web113下記URLにアクセス

または「不安全設備WEB受付」で検索！

https://web113.ntt-east.co.jp/safety_report/

不安全設備WEB受付

検索

NTT東日本からのお知らせ

■長寿お祝いについて（※勤続20年以上の退職者対象）

NTT東日本社長からのメッセージを添えた「カタログギフト電報」を贈呈させていただきます。

長寿の種類	贈呈品
喜寿（77歳）	カタログギフト電報 （1万3千円相当）
米寿（88歳）	
白寿（99歳）	

（注：年齢は満年齢でNTT東日本が把握し贈呈しております）

■弔慰金について（※勤続20年以上の退職者対象）

NTT東日本から以下のとおり香典をお贈りしています。

本人・・・30,000円

配偶者・・・10,000円

※ NTT東日本の制度に基づいて贈呈を実施していますが、最終退職会社（転籍等）によっては贈呈の対象外となる場合がありますのであらかじめご了承ください。

【注】贈呈期限については、長寿お祝いは該当年齢の誕生日から弔慰金は死亡の事実が発生した日から、それぞれ2年以内となります。

長寿のお祝いおよび弔慰金に関するお問合せは
NTT東日本-東北 総務部 社員サービス担当へご連絡ください
TEL：022-281-8716

■ O B ・ O G 交流会について

【メールアドレス等の事前登録のお願い】

ご登録いただいた方へO B ・ O G交流会のご案内をメールにてお送りいたします。

メールアドレスの事前登録にご協力賜りますようお願いいたします。

登録用QRコード

スマートフォンのカメラ
で読み込んでください



【ご登録内容】

- ①氏名
- ②ふりがな
- ③生年月日
- ④ご住所
- ⑤ご連絡先電話番号
- ⑥メールアドレス
- ⑦NTT東日本グループ
退職時の所属会社・役職

※ご登録いただきました個人情報は、O B ・ O G交流会のご案内の目的以外には一切使用いたしません。

※メールアドレス等のご登録が無い方には郵送でご案内をお送りいたします。

【NTT東日本-東北 企画総務部】

災害時の安否情報が、やり取りできるサービス

171

災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、大規模な災害が発生した場合に提供を開始します。

災害時は、全国から被災地への電話がつながりにくくなります。
「災害用伝言ダイヤル 171」は、被災住民の皆様の安否を伝える
声の伝言板です。もしものために、ぜひ覚えておいてください。

毎月1日等、「災害用伝言ダイヤル」を体験できます。

伝言の録音方法

171 をダイヤルする

↓ ガイダンスが流れます

録音の場合 **1** 暗証番号を利用
する録音は **3**

↓ ガイダンスが流れます

連絡を取りたい被災地の方の固定電話番号または
携帯電話・PHS・IP電話の番号をダイヤルする。

↓ ガイダンスが流れます

プッシュ回線の場合は **1**

ダイヤル回線の場合はダイヤル不要
↓ ガイダンスが流れます

伝言の録音をする(30秒以内)

伝言の再生方法

171 をダイヤルする

↓ ガイダンスが流れます

再生の場合 **2** 暗証番号を利用
する再生は **4**

↓ ガイダンスが流れます

連絡を取りたい被災地の方の固定電話番号または
携帯電話・PHS・IP電話の番号をダイヤルする。

↓ ガイダンスが流れます

プッシュ回線の場合は **1**

ダイヤル回線の場合はダイヤル不要
↓ ガイダンスが流れます

伝言の録音内容を確認する

【ご利用料金】 NTT東日本・NTT西日本の電話サービスから伝言の録音・再生をする場合の通話料は無料です。他通信事業者の固定電話、携帯電話
やPHSから発信する場合、通話料については各通信事業者にお問い合わせください。なお伝言録音等に伴うサービス利用料は無料です。

インターネットを利用した災害用伝言板(他の災害用伝言サービスと連携可能)

web171
災害用伝言板

<https://www.web171.jp>

または、web171と検索



【「災害用伝言ダイヤル(171)」と「災害用伝言板(web171)」で相互連携が可能となりました。】

【ご利用料金】 災害用伝言板のサービス利用料は無料ですが、インターネット接続費用やプロバイダ利用料
および、ダイヤルアップ接続の場合は通話料等が別途必要となります。

【体験利用期間】 「毎月1日及び15日」・「正月三が日」・「防災週間(8月30日～9月5日)」・「防災とボランティア週間(1月15日～21日)」に
「災害用伝言ダイヤル」を体験できます。(体験利用時もご利用料金は同様です。)

お問い合わせは、局番なしの「116番」へ

(携帯電話・PHS・弊社以外の固定電話からのお問い合わせは「0120-116-000」へ)

◎表紙写真の紹介

シリーズ おらほの自慢

くふるさとの隠れた魅力を再発見！

今回は秋田です。表紙右側の大きな写真『男鹿大滝』から紹介します。この滝は男鹿半島の最深部、滅多に人が立寄る事の無い所であり、落差は10 m程度とこじんまりしています。そばえ立つ岩肌と木々に囲まれた滝を裏から見る事ができ、岩盤に空いた穴を通してしながら流れ落ちて水しぶきをあげるその光景は、雄大ならずとも神秘的で一度見たら一生忘れないようなビジュアルの滝です。その左側、神社鳥居の小さな写真は由利本庄市森子にある『森子大物忌神社』です。映画「THE FIRST SLAM DUNK」の中で「山王工業高校」のエースが参拝している神社の風景にそっくり！と話題になりました。一ノ鳥居から社殿までは、約300段の急な石段が築かれており、スラムダンクファンの聖地になっています。右側にある小さな写真は『ロケット発祥の地』の記念碑です。1955年8月、東京大学（故）糸川秀樹博士が国内初のペンシルロケットを打ち上げた場所也由利本庄市です。秋田県北地区の山本郡八峰町には、白瀑の滝つぼに神輿ごと入り、五穀豊穡・海上安全・商売繁盛などを

祈願する白瀑神社例大祭『白瀑神社神輿の滝浴び』があります（写真左上）神輿が滝に入るのは、その昔担ぎ手の若衆が暑さのあまり神輿を担いだまま滝つぼに飛び込んだことが始まりとされ、全国でも当社だけといわれる、勇壮な中にも涼気漂う夏の神事です。右下の写真2枚は冬の風物詩です。上の写真は大仙市花館地区の『川を渡る梵天』です。大梵天は、家内安全、町内安全、五穀豊穡を祈願し、ほら貝の音も高らかにぼんでん唄をうたいながら町内を練り歩き、一の鳥居でもみ合いをした後、川舟で雄物川を渡り、標高約207 mの伊豆山神社に奉納します。数あるぼんでん奉納行事の中でも川を渡るのはここだけです。その左側の写真は『掛魚祭り』です。掛魚とは、漁師が氏神様にお供えする魚のことで、祭りの主役となる大タラを一匹ずつ荒縄に釣り下げ、海上安全、豊漁を願って寒鰯を担いだ人々が金浦漁港から約2 km、町を練歩き金浦山神社の神前に供えます。神事後は鰯の肝で味付けした大ぶりの鰯の身がたっぷり入った鰯汁がふるまわれ、冷えた身体に染み渡る美味さはたまりません。右下でポーズをとるのはローカルヒーロー『超人ネイガー』です。にかほ市を中心に秋田県全域で活躍しています。名前のネイガーはナマハゲの叫び

声「泣ぐ子は居ねがあ！」から付けたそうです。2005年6月にデビューし、現在も大活躍中です。最後は秋田のソウルフード、写真真ん中左の『とんぶり』と『なすの花ずし』を紹介します。澄んだ水の郷、秋田県大館市比内町の清流が作るとんぶりは一年草であるホウキギの成熟果実が原料で、その実を加熱加工したものです。直径1〜2 mm程度の粒状で味は無味無臭ですが、食感を楽しむ食材として使われることが多く、「畑のキャビア」と呼ばれています。プチプチとした魚の卵に感じられる歯触りが絶妙で、昔から強壯、利尿の効果があると言われています。『なすの花ずし』は正月や晴れの日の漬物として作られてきました。茄子の紺色に黄色い菊と赤い南蛮がよく似合います。丸茄子が適しているので丸茄子の栽培が盛んな県南部が中心の漬物です。秋田は「日本書紀」に「鶯田」また「統日本紀」には「秋田村高清水岡」という地名が登場することから、律令国家における支配の過程で生まれた呼び名と考えられています。米作りを中心とする農業と林業、鉱業を中心に大きく発展し、数々の文化を築き上げてきました。世界遺産に登録された自然と遺跡、歴史や文化がぎっしりと詰まっています。是非来県して、秋田県の魅力をお楽しみ

ください。お酒も最高!!秋田にこいへ〜(来て下さいね)

(写真提供/電友会秋田支部)

●●● 編集後記 ●●●

長く続いたコロナ禍も、昨年5月に5類感染症に移りし日常が戻ってきました。いわゆる「ウイズコロナ」となり、会合なども対面で行われ活動が一段と活発になってまいりました。ところが、元旦の能登半島地震や羽田でも飛行機事故と激動の年明けとなりました。今回は「震災・災害コーナー」に自然災害にまつわる体験談や防災に関する声が寄せられました。過去の経験を忘れることなく「防災の意識と備え」を持ち続けましょう。また、災害ではありませんが、戦争当時の体験を書かれた亡き先輩達の「思い」も掲載しております。

表紙のテーマ「シリーズおらほの自慢」〜ふるさとの隠れた魅力を再発見〜今回は秋田の隠れた魅力を紹介します。今回は宮城の自慢を紹介していきますので、お楽しみに。

電友会情報のタイムリーな共有を図るうえで、ホームページの活用は有効な手段であると思います。お知らせや、行事予定、サーク

ルや文化活動の紹介の場として積極的に活用していきますので、時々ホームページを覗いてみて下さい。

一部に誤記、脱字等不適切な箇所があるかと思いますが、お許しください。また紙面の都合上、一部添削させていただいた箇所もありますので、併せてご了承願います。

◆95号の巻頭言は、NTT東日本秋田支店長様にお願いしました。心より感謝申し上げます。

◆次号(96号) 会報について

・発行時期 令和7年1月1日

・原稿締切 令和6年10月20日(期日厳守)

◆次号(96号)の巻頭言は、NTT東日本宮城事業部長様、電友会宮城支部にご協力をお願いいたします。

東北電友会会報 第95号

令和6年8月1日発行

電友会東北地方本部

〒984-8519 仙台市若林区五橋3-2-11

NTT五橋2ビル内

電話 022-212-1144

FAX 022-212-1144

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

新入会員募集しています

電友会では、常時、新会員の受付をしています。

皆様のご友人で入会されていない方がおいでになりましたら、ぜひ、入会を勧めていただきますようお願いいたします。

【お問合せ・連絡先】

電友会東北地方本部

▶ 電話(022)212-1443 ▶ FAX(022)212-1444

▶ E-mail : keyaki@cocoa.ocn.ne.jp